

# 東京邑南町 ふるさと会通信

発行日 平成30年9月25日  
号数 第2号  
発行 東京邑南町ふるさと会  
発行人 半谷豊 編集人 三宅良一  
事務局 千葉市緑区高津戸町 309-144

## 第5回総会が

## 開催される

平成29年11月11日(土)東京邑南町ふるさと会第5回総会が、東京大手町のサンケイプラザにて、開催されました。

中村会長のご挨拶に続き、体調不良で半谷豊(口羽出身)新会長は欠席されましたが、コメントが司会より読み上げられました。邑南町から遠路ご参加頂いた日高輝和副町長、清水優文町議会副議長より邑南町の近況とご挨拶を頂きました。農林振興課米穀販売係の林田知樹様からは邑南町の新米をご紹介いただきました。また島根県東京事務所 吉山治所長からは、島根県の近況とご挨拶を頂きました。

その後事務局より事業報告と会計報告、そして事業計画・収支予算案の報告があり、それぞれ承認され、総会が終了しました。

### 二部は懇親会

アトラクションには石見神楽東京社中による石見神楽が披露されました。まさかで見える石見神楽は大迫力。

「神楽」は、かつては日本全国で盛んに行われていた我が国最古の芸能。その歴史をひもとくと、日本神話のなかの「天岩戸(あまのいわと)伝説」にまでさかのぼり、岩戸にお隠れになった天







照大御神(あまてらすおおみかみ)を誘い出すために、天鈿女命(あまのうずめ)が岩戸の前で舞った踊りが起源だといわれています。現在演目は、古事記や日本書紀を原典とするものなど。

スケールも大きくなっています。特に石見神楽は、「神事」でありながらも「演芸」的要素が濃く、ストーリーも明解。舞もお囃子も激しく、胸のすくような爽快さと勇壮さが、心躍らせるお

囃子と迫力ある舞に、自然と神話の世界。随所に見どころがあり、大いに盛り上がりました。石見に生まれて良かった。こんな素晴らしい芸能があったのかと、思える「石見神楽」の演奏と舞

でした。アトラクションの後は、岡部健副会長の軽妙な進行で、参加者のご紹介とスピーチで楽しい、アットホームな、ふるさと会でした。



# 三三三線線の思い出

東京邑南町ふるさと会

会長 半谷 豊(羽須美出身)

昨年は、体調不良の為欠席いたしました。申し訳ありませんでした。力不足とは思いますが会長を務めさせていただきます。



三三三線の思い出、とのことですが、口羽に入るトンネルの下に、出羽川が流れています。その鉄橋の下が最高の釣り場でした。毎日そこで鯉、鮒、ギギ等を釣って食べていました。

三三三線は本当にのどかな鉄道で、走つて来る人を見つけると発車の時間でも止まって待っていてくれました。

三次の0番ホームのベンチに座っていると、懐かしい方言を耳にすると、「ああ帰ってきたな」と、帰ってきた実感でホッとしたものです。

「釣りのこと思い出すのは、出羽川が江の川に合流するところに、大きな中州が出来ていました。そこが夜釣りのポイントで、ウナギ、ギギがよく釣れました。子供の頃、実家が旅館だったので、母にたしか三百円くらいで売り付けていたと記憶しています。それが私の小遣いでした。

東京邑南町ふるさと会は、続いて行くとおもいます。会員の高齢化と共に、出席者が減少しています。何か良い考えがあればお教えください。本年も当会を宜しくお願い致します。



# 三三三線の思い出

斉藤 鉄夫(阿須那出身)

私が生まれ育つたのは、旧羽須美村の阿須那ですが、高校は広島で、大学は東京で学びました。

夏、冬、春休みには三三三線(当時は三次ー口羽間の三三三線)を使って帰郷していました。

大学の夏休みが終わり上京する日の朝、口羽駅から三三三線の列車に乗車するため、父親のオートバイの後ろに大きなカバンとともに乗っていました。

何かの理由で少し遅れてしまい、口羽駅に近付くと、何と乗るはずの列車が、発車して動き出しているではありませんか！「一〜三百メートルは離れていようか。オートバイを降り父と二人で大きく両手を振って「おーい、待つてくれ！乗せてくれ！」と叫びました。するとどうでしょう。動き出して二〜三十メートル進んでいた列車が、ギーツとブレーキをかけて止まったのです。その列車のところまで走っていくと車掌さんが窓から顔を出し、「ホームまでバックするから、ホームで待つていて下さい。」とおっしゃるのです。一旦出発して離れたホームまでバックして私を乗せて、何分か遅れで三次に向けて出発しました。三次から福塩線で福山へ、それから山陽本線で岡山行き、当時東京ー岡山間で運転していた新幹線ひかり号で無事東京に帰ることができました。子供の頃、川本は邑智郡の郡都で三三三線川本駅の賑わいは今でも印象深く憶えています。国鉄バスで阿須那から川本へ行き三三三線に乗って海水浴に連れていってもらったことも良い思い出です。三三三線にはなかつた列車の行き違いも鮮やかな画面として記憶に残っています。今、口羽駅、川本駅のホームに立つと、いくら待つても列車は来ない、との淋しさに打ち負かされそうになります。ふるさとの再生、創生に頑張らなければと勇気をふるいおこしている昨今です。

三三三線の思い出、とのことですが、口羽に入るトンネルの下に、出羽川が流れています。その鉄橋の下が最高の釣り場でした。毎日そこで鯉、鮒、ギギ等を釣って食べていました。







平成29年7月18日三次駅に  
「石見川本行き列車」

## 古里のお宝探訪①

### 鹿子原虫送り踊り

古里離れて数十年、今ではこちの生活が長こうなつて、すっかり赤ぬげんさつとろろが、たまにやあ思い出しちゃんさいよ。ふるさとにや、ええとこやら、ええもんがえつとあるぞ。

というこで、第一回は、毎年七月二十日に行われる矢上、鹿子原(かね)ばら)地区に残る五穀豊穡と農作物に取り付く害虫を追い払う、害虫退散を願う伝統行事、「鹿子原虫送り踊り」です。鹿子原は、矢上地区の中心部からみると南部に位置し、森脇谷、荻原、力沢谷に隣接し、香木の森や、いわみ温泉霧の湯のある地域です。地元の三穂両神社を出発し、近くの田んぼに向かい、畦道を一列になつて行進します。これを「道行き」と言い、夏の暑い中、踊りを披露、田んぼの周りを歩くことで、害虫を引き寄せる意味があります。氏神の諏訪神社の境内で踊りを奉納したあと、踊りの装束の花笠と太鼓のバチにつけた飾り(虫垂れ)などを境内で焼き払うことで害虫退散と五穀豊穡を祈り、行事を締めくくります。虫送り行事は、昔は全国各地で行われていましたが、農業が普及するにつれて原型

をとどめるものはなくなってきました。農民の素朴な願いや慣わしを受け継ぎながら、第二次世界大戦下でも休むことなく集落ぐるみで、今日まで伝承されてきました。今なお古形を残す全国でも希少な祭りとして、昭和四十二年島根県無形文化財に指定されました。





# 古里のお宝探訪②

## 西蓮寺



に？存在するとは思えないほど、歴史マニアの心をくすぐるスポットです。西蓮寺本堂。寺院前にある看板から、由緒を引用。

永祿3年(1560)下口羽の琵琶甲城主(初代)口羽下野守通良が創建。真言宗観世音院 西蓮寺と号した。天正4年(1576)石山合戦の最中、口羽守通は毛利氏の大將としてよく奮戦して織田水軍を破り、石山本願寺へ数百艘の船をもつて兵糧武器等を送り届けた。浄土真宗十一世宗主 顕如上人の御感あさからず。その縁あつて通良は、以来顕如宗主に深く帰依して、翌年、元可(三男)へ泉秀と法名を賜り、この寺の住職とした。

爾来、浄土真宗に改宗、寺領の寄進も受け、江戸時代には浜田藩の菩提寺、徳川家の位牌所の一つにもなり、石見安芸、備後、多くの門徒を持つている。楼門(山門)

弘化三年(1846)起工、嘉永元年(1829)上棟。棟梁は、旭町「和田の匠」と呼ばれた名工、長山喜一郎で、その傑作として石見三門の一つにあげられている。

桁行8.3メートル、梁行4.4メートル、棟高11メートル、瓦葺二階建て、入母屋造り。

一切金釘を使用せず、扇や庇、上欄等一ツ未完成の部分もあるが、素木の

◆石見三門の一つ「西蓮寺」は毛利元就亡き後、毛利家を支えた御四人の一人口羽通良が創建  
邑南町羽須美地区の阿須那の西蓮寺です。阿須那から細い山道を登っていくと見えてくるのが細貝地区。  
そこにあるのが西蓮寺。こんな山奥

総檜造りである。階下に六頭の竜、四対の獅子、鶴と雲が十二、花に極楽鳥正面に雲竜、階上には竜、獅子、鶴等、華麗な彫刻で飾られている。

ちなみに、石見三門の残り二つは、浜田市旭町の正蓮寺山門と、邑南町市木の浄泉寺山門。

邑南町には三門のうちの二つも存在します。





◆ 口羽のお米			◆ 日和のお米		
コース	内容	価格	コース	内容	価格
1年コース	1 毎月10kgづつ×12回	53,200	1年コース	9 毎月10kgづつ×12回	60,000
	2 毎月5kgづつ×12回	31,800		10 毎月5kgづつ×12回	34,800
半年コース	3 毎月10kgづつ×6回	26,800	半年コース	11 毎月10kgづつ×6回	30,600
	4 毎月5kgづつ×6回	16,000		12 毎月5kgづつ×6回	18,000
その都度コース	5 一度に30kg	12,000	その都度コース	13 一度に30kg	12,900
	6 一度に15kg	6,650		14 一度に10kg	5,300
	7 一度に10kg	4,700		15 一度に5kg	3,150
	8 一度に5kg	2,750			

ふるさとの米を買いちゃんさい  
今年も美味しいお米を食べて頂く  
と口羽と日和のお米を、ご紹介し  
口羽のお米はコシヒカリまたはキヌム  
ス。日和のお米はコシヒカリです。お  
届けするお米は、冷温庫に玄米で保  
管し、その都度精米されています。玄  
米での発送や小分けも可能です。  
「えつと買っちゃんさい。」

# 平成30年度

## 総会のご案内

今年度の総会及び懇親会が、来る十  
一月十七日土曜日正午より、会場は昨  
年同様、東京大手町サンケイプラザで  
開催することになりました。邑南町か  
らもご出席頂く予定です。毎年出席頂  
いている方も、久しぶりの方も、初めての  
方も、ご家族お友達と、ぜひ出席下さ  
い。懐かしい顔に逢えるかも。「元氣な  
顔を見せちゃんさい」。ささやかです  
がお土産を用意しております。  
何かとお忙しいかと存じますが、万  
障お繰り合わせの上お出かけ下さいま  
すようご案内申し上げます。懐かしい  
お友達やお仲間へ「たまにやあ、ちろ  
うて行こうや」と声を掛けて頂き、「ち  
ろうて来ちゃんさい」

日時 11月17日

土曜日 正午

場所 東京大手町

サンケイプラザ

千代田区大手町一七七一

電話〇三一二七三二二五八  
各線大手町A4 E1出口直結  
東京駅丸の内口北口徒歩7分

会費 男性 九、〇〇〇円

女性 八、〇〇〇円

同伴者五、〇〇〇円

学生 三、〇〇〇円

中学生以下無料

(当日会場にて申し受けます)

(準備の都合上、11月5日までに同封  
の返信用はがきにて、出欠をご連絡下  
さいますよう宜しくお願いします。

### 編集後記

皆様いかがお過ごしでしょうか。暑か  
つた夏もようやく終わり朝夕は涼しく  
なってきました。西日本豪雨、北海道胆  
振東部地震と。洪水、台風、地震と日  
本各地で大きな災害が頻発した今夏。  
被災されました皆様には、心よりお見  
舞い申し上げます。

被災者が「長くここに暮らしているけ  
れど、こんなことは初めて」「まさか自  
分がこんな目に遭うとは……」と語る姿  
からは、想定外の事態の深刻さが伝わ  
ってきました。大きな災害は日本中ど  
こでも起こり、誰もが被災者になる可

能性があることを、改めて思いしらさ  
れました。

今号では3月末に廃線となりました  
三江線について寄稿頂きました。有難  
うございました。この場をお借りして  
御礼申し上げます。

先日総務省から七十歳以上人口が  
初めて二割を超え、六十五歳以上は二  
十八%。百歳以上が六万七千人、との  
発表がありました。百歳以上、人口比  
では島根県が6年連続トップ。

東京邑南町ふるさと会の会員も、高  
齢化や、上京される方が少ないこと、  
Uターンされる方等、減少傾向にあり  
ます。転勤等で関東に来られた方がお  
られましたらぜひお教えて下さい。宜  
しく願います。役員の皆様と相談  
して、喜んで頂けるような会にしたい  
と思っています。次回発行は、来年9月  
の予定です。皆様からの原稿をお待ち  
しております。十分注意しております  
が誤字脱字、見づらいところもあるう  
かと思いますが、どうぞお許し下さい。  
お気づきの点がありましたら何なりと  
申し付け下さい。

暦の上では秋、食欲の秋、実りの秋、  
読書の秋、スポーツの秋、芸術の秋、行  
楽の秋、様々な秋がありますが、十一  
月十七日は「ふるさと会の秋」！総会  
をお会いしたいと思います。どうぞご自  
愛下さい。

(二) 宅良 (一) 矢上 萩原梅吉屋の三男